

Lesson06 Stylistics

(p.p.32)

文章には、本質的な意味を変えない、異なった構造が存在するために言い換え表現が存在するかもしれない。以下の文を考えてほしい。

(1) 私はザチャリーにマックスと名付けられたカメを手にとった。

しかしながら語順における変化はしばしば意味の違いを意味する。(man bites dog versus dog bites man) (1) の文の場合にはそうではない。時として、語順は意味を変化させることなく変化しうることがあり、われわれにその言語についての意味特性の知識があればこのことが事実であるのはどのような時かということが分かる。(1) と似たような例は

(2) (a) カルロを知っている男性がはるばる訪ねにやってきた。

(b) ある男性がはるばる訪ねにやってきたが、彼はカルロを知っていた。

(3) すぐに母親に電話しなさい。

(p.p.33)

他の言い換え表現の例はわずかな構造上の違い、形態の違い、そして機能語の違いである。もしあなたが英語を知っているのならば、あなたは以下の表現が言い換え表現であることが分かるだろう。

(4) ドローレは動物に対してとても優しいようだ。

(5) 彼らは干し草をトラックに積んだ。

(6) (a) このヴァイオリンでソナタを弾くのはやさしい。

(b) このヴァイオリンでソナタを弾くのはやさしい。

(c) ソナタをこのヴァイオリンで弾くのはやさしい。

英語の話者はこれらの言い換え表現の関係に関して意見が一致しているので彼らはきっと(4)(5)そして(6)のそれぞれの文に本質的に同じ意味を当てはめるという意味特性上の規則について同じ意見を共有するだろう。

しかし他の、前の例とは違う言い換え表現の例が(7)、(8)、そして(9)に示されている。

- (7) ジャックとジルは丘を登った。
(8) ジョンはいつか大金持ちになることを期待していた。
(9) 彼女と彼はダイエットをしている。

(p.p.34)

(7) では、その 2 つの表現は、その言語の意味特性の規則を考えると *went up the hill* が、(7b) ではこの事実 (※丘を登った) が一度しか述べられていないにもかかわらず Jack と Jill の両方に当てはまること分かるので、言い換え表現である。この、“deletion of identical material (同一要素の削除)” は世界中のすべての言語に見受けられ、それは言語が、すでに知られているか容易に推論できる情報を繰り返さないことによってより効率的になろうとした帰結かもしれない。同様の原則は (8) で働いており、そこでは *himself* の省略がその意味を変えていない。そして (9) では、“verb phrase (動詞句)” の部分の連続的な省略が “he has been dieting.” を指しているということを理解するのを邪魔していない。もし (9a) が以下のように読めたらということを考えてみなさい。

She has been dieting and he has been eating like a pig.

(9b) も (9c) のどちらも省かれたものが同一でないであろうことから言い換え表現ではない。われわれは英語の意味特性の規則を知っているのでこれらすべてのことがわかるのである。

上に示されているようにすべての言語には意味を “preserve (保持する)”、つまり言い換え表現になるような似通った削除規則を持つ。下の (10b) の日本語文において最初の節の動詞は省かれており、しかしまだ *tabeta* が *ate* であると理解することはできる。

- (10) (a) 太郎は魚を食べた。ケイコはご飯を食べた。
(b) 太郎は魚を食べた。ケイコはご飯を食べた。

(p.p.35)

実際、動詞が欠けているが理解できるという、同じ現象が (10b) の英語訳に見られる。両方の言語において、意味特性の規則により動詞がはっきりと示されていない節であっても動詞の意味を理解することが可能である。

照応形は長い表現の代わりに用いられる短縮形、あるいは代用形という使用法である。ふつう、そのような代用形は代用形が表すこと (内容) が文脈から明らかである場合

に使われる。代名詞は代用形の一部である。文の組のうち、一方が代用形で置きかえられているものはふつう言い換え表現である。以下の組はこれを示すものである。

- (11) 私はディサを愛しているし、彼もそうである。
- (12) エミリーは礼儀正しく行動したし、ザチェリーもそうだった。
- (13) 私は気分が悪く、それで悲しくなった。